

第1回浜松市基本計画検討委員会 議事録

開催日時：2024年1月16日（火）10:00～12:00

出席者：市長、斉藤薫委員、松島好則委員、中村勝彦委員、高木邦子委員、鈴木まり子委員、久保田尚委員（オンライン）、浅野純一郎委員（オンライン）、石川春乃委員、北村武之委員、鈴木美枝委員、尾島俊之委員、池田孝行委員、笹原恵委員、吉田早織委員、廣野篤男委員、東博暢委員

傍聴者：0名、報道関係者3名

開催場所：浜松市役所庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委嘱状交付
- 4 委員自己紹介
- 5 議事
 - (1) 浜松市総合計画について
 - (2) 策定スケジュールについて
 - (3) 市民意識調査（アンケート）の中間報告について
- 6 意見交換
- 7 閉会

（事務局 石坂企画調整部長）

ただいまから第1回浜松市基本計画検討委員会を開会いたします。本日は、浜松市消費者団体連絡会会長の野中様と静岡文化芸術大学副学長の森様の2人がご欠席です。また、2名の方、埼玉大学大学院の久保田様、豊橋技術科学大学の浅野様は、オンラインでのご出席です。よろしく願いいたします。

（中野祐介委員長）

皆様おはようございます。市長の中野でございます。本日は、浜松市基本計画検討委員会第1回目でございます。皆様にはこの検討委員会の委員をお引き受けいただき、大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また皆様には、日頃から市政の推進にご理解ご協力をいただいております、この場をお借りして改めて厚く感謝を申し上げます。

2014年に策定をした浜松市の基本計画ですが、いよいよ終期を迎えることになりました。つきましては、市内の各界各層の有識者の皆様のお知恵をお借りしつつ、この新しい基本計画を作っていくという趣旨で今回、この検討委員会を設置させていただいたところです。

次の基本計画であります。現在の市の最上位の計画でございます「基本構想」、ここに掲げております「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」の実現を図るためにこれから先10年間、浜松市として進むべき道、方向性を定める重要な計画です。

この浜松、様々な面で、資源がある、力がある、ポテンシャルがある、魅力ある素晴らしいまちだ

と思っておりますが、浜松においても現在、残念ながら人口減少が進んでいます。これは、私にとっては一番の課題だと思っております、この人口減少問題の克服をはじめとする、現在の様々な課題を乗り越えながら、よりよい街を築くためにも、ぜひとも皆様の豊富なご経験、知識を頂戴したいと考えております。

「市民が幸せを実感できる元気なまち浜松」を実現するためにも、是非とも皆様の活発なご議論をいただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

(事務局 石坂企画調整部長)

ありがとうございました。それでは次に、本検討委員会の設置要綱について、事務局から説明いたします。

(事務局説明)

(事務局 石坂企画調整部長)

次に委嘱状の交付に移ります。本日、委員にご就任いただいております皆様には委嘱状を用意しております。委員を代表しまして、浜松商工会議所会頭の斉藤薫様に、浜松市長から、交付をさせていただきます。

(委嘱状の交付)

(事務局 石坂企画調整部長)

ありがとうございました。そのほかの皆様には委嘱状を机上に配布させていただいておりますので、ご確認ください。また、会場にいらっしゃらない委員には、後日郵送いたします。

それでは委員の自己紹介に移ります。お手元の「次第」の次に「出席者名簿」がございますのでご覧ください。委員の皆様より、お1人1分ほどで、名簿の順に自己紹介をお願いいたします。まず、斉藤委員よりお願いします。

(斉藤薫委員)

商工会議所会頭の斉藤です。出身母体は遠州鉄道です。遠鉄は、いわゆる、生活に絡むようなことや公共交通、非常に人口が減っている中で、大変な思いをしております。またコロナがまだ影響を及ぼして、活発な動きがないことと、皆さんご迷惑かけておりますバスやタクシーの乗務員不足ということ、非常に今極端な状況が起きている産業でございます。

この基本計画の中で、私からも意見を出しつつ、皆さんのご意見も聞きながら進めていければと思っております。よろしくお願いたします。

(松島好則委員)

浜松市農業委員会の会長の松島好則と申します。よろしくお願いたします。

農業委員会という馴染みがない方もいらっしゃると思いますが、農業委員会は、市の職員の名刺と同じ名刺を使っております。しかし、名刺とは異なり、委員会組織は、市長部局ではなく国から定められて全市町村に設置する、簡単に申しますと教育委員会とか選挙管理委員会などのような形で市から離れておりますが、市と同じような行政を行っています。

また、仕事の大きな内容は、農地を安定確保することで、食料自給率をしっかりとするということと、

それを支える担い手をしっかり確保するというような形で、農地関係に関する、また農業行政に関する
ことの業務を行っております。皆さんよろしく申し上げます。

(中村勝彦委員)

浜松民間保育園長会の会長、入野こども園の園長をしています中村と申します。よろしくお願いま
す。

浜松民間保育園長会は、浜松市内にある社会福祉法人と学校法人の認定こども園、保育園、105 カ園
が加盟している団体です。現在、その団体の会長以外にも、浜松市の公立民間のこども園・保育園の職
員で構成されているはままつ保育士会、保育施設以外にも高齢者施設、障害者施設（児）、保護施設が加
盟している浜松市社会福祉施設協議会の会長もしています。

今回の基本計画の中に、是非とも、現場の声や利用者の声、家族の声、そして地域の方の声が、反映
できるように尽力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(高木邦子委員)

静岡文化芸術大学から参りました高木と申します。私は子育て教育の分野として配属されております。
あまり知られていませんが、静岡文化芸術大学には教職課程がございまして、中学校と高校の国語と英
語と中学社会科、高校公民の免許を出しております。ただ、あまり教員になろうという学生は多くなく、
それはうちが教育学部ではないからかと思いきや、現在は教育学部でも、卒業した学生さんがなかなか
教員にならないということで、教育の現場でもご存じの通り、教員不足が続いております。

また、精神疾患の休職率が過去最高というデータもありましたとおり、非常に人材を確保するのに厳
しい状況だったり、人材の教育に対しても大変な状況があるかと思ひます。

浜松市だけでも、教育現場を何とか良くしたいと思ひてこの場に参加させていただきました。どうぞ
よろしくお願ひいたします。

(鈴木まり子委員)

安心・安全・快適なところがかかわらせていただきます、浜松の企業が手をつなぐ災害支援ネットワ
ークはままつ na net の事務局長の鈴木まり子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

今、浜松の 92 社で災害支援活動させていただいて、今日もこの会議が終わったら、珠洲市の方に私も
入る予定でいます。オール浜松ということで、商工会議所の斉藤会頭にもご理解いただき、大学や企業、
浜松市も連携していただき、今回は珠洲市で、活動させていただいております。

今回の基本計画も、分野がありますが、縦割りにならないで、先ほどの人口問題にも防災とか、実は
関わってきたり、若者たちの災害の分野の人たちを集めるとか、いろんな意味で計画は重なっている
と思ひます。分野を意識しながらも、全分野で、この基本計画があったから、10 年後、より暮らしや
すい浜松市になったよねって言われるために少しでも貢献できたらと思ひます。どうぞよろしくお
願ひいたします。

(久保田尚委員 (オンライン))

皆様おはようございます。埼玉大学の久保田尚と申します。よろしくお願ひいたします。都市計画、
或いは特に交通計画について勉強している者でございます。

何で埼玉大学というふうに思われている方も多いかと思ひますけども、もともと私の片思いから始ま

っております。今から 30 年以上前に、当時の浜松市さんも非常に画期的なことをいろいろやっておられて、全国的に有名な駅前広場を作られたり、或いは、特にバスで非常に画期的ないろいろなことをやっておられて、学生の時代からヒアリングなどでお邪魔していました。

その縁で、1999 年に鍛冶町通りのトランジットモール社会実験という、非常に新しい試みに参加させていただいたり、2002 年からも今から 20 年以上前からですけど、21 世紀都市交通会議という会議がずっと連綿と続いておりまして、これも全国的に非常に画期的なのですが、市の交通政策を常にモニタリングし続けるという会議ができていまして、それにも参加させていただいています。

この 3 月に 4 年ぶりに、コロナが明けてまた再開されますので、交通政策として主に参加させていただきたいと思います。この会議にも主に都市計画や交通政策の観点から参加させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(浅野純一郎委員 (オンライン))

こんにちは。豊橋技術科学大学浅野でございます。オンラインで失礼しております。私専門は、都市計画で主に土地利用計画とか、地方都市を中心とした、いわゆる持続可能に関わるような昨今の都市政策全般を研究しています。

それで、浜松市さんにはよくお世話になっておりますけれども、2 年前ぐらいまで、都市計画審議会の会長、副会長とさせていただいたご縁で、お声掛けいただいたのかなと思っております。

東三河の各自治体の総合計画全般にも、かなり関わっていますので、他市との比較等を踏まえながら、浜松市さんの良さを一緒に勉強しながら、発言していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(石川春乃委員)

静岡理工科大学建築学科の石川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。私の専門分野は建築環境工学、脱炭素の社会を目指す中、ZEBやZEH等、建築の脱炭素対策が主な分野になります。

今、浜松市が策定をしている地球温暖化対策実行計画の策定部会の部会長を務めさせていただいております。浜松市はかなり早期から国の中でも先駆けてエネルギー政策を行ってきました。特に太陽光発電については、日本でも有数の実績を誇ります。これからどうやって行っていくか、国がいろいろな施策を発信する中、浜松市は今までの実績を前提に、2030 年には、カーボンニュートラルを 2050 年に向けて 52%の削減を図るということで発信をする予定です。この春に、その内容がリリースされるかと思いますが、そうした環境エネルギーの分野から参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(北村武之委員)

株式会社浜松新電力の北村でございます。私はもともと市の職員でして、環境やエネルギーを主に担当しておりました。今は退職しまして、サーラエナジーというガス会社と、株式会社浜松新電力、の 2 社に勤めております。さらには今年度から、浜松市の浜松地域脱炭素化アドバイザーということで、市のカーボンニュートラルの業務にも協力をさせていただいております。

この基本計画につきましては、「環境・エネルギー」分野というのがございますので、微力ながらご協力できればと考えております。よろしくお願いいたします。

(鈴木美枝委員)

こんにちは。浜松市社会福祉協議会地域支援課の鈴木美枝と申します。よろしくお願いいたします。社協は、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して、地域住民の皆さんや関係機関・団体等、様々な方々のお力をお借りしながら、地域福祉の推進をしております。

また、社協にコミュニティソーシャルワーカーという福祉の専門職員を配置して、様々な複雑・複合化した課題を抱える世帯の支援も行っています。誰もが安心して暮らせる浜松市になるように、地域住民をはじめとする皆様のお声をお届けしながらつくれたらと思っております。よろしくお願いいたします。

(尾島俊之委員)

浜松医科大学健康社会医学講座の尾島俊之と申します。専門は公衆衛生学と疫学で、健康について考えることと数量的に迫ることを専門にしております。その中でも、厚生労働省の健康寿命に関する研究班を長らくやっています。浜松市は 20 大都市の中でも、健康寿命断トツで日本一でしたが、浜松市としては伸びてはいますが他の地域の追い上げが激しくて地盤沈下しつつあるというところで、また日本一がしっかりとできるようになればいいなと思っております。そういうこともあり、浜松ウエルネスプロジェクトにも関わらせていただいています。

また、災害関係のこともやっており、今、災害時に保健医療福祉調整本部というのが作られるという体制ができたり、DHEATという支援チームや保健師のチームが出動したり、そういう活動が行われていまして、どのように動いたら効率的・効果的に対応ができるかと、普段からの備えをどうしたらいいかと、そんな研究もしております。

その他、自殺対策の関係や廃棄物の関係などに関わらせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

(池田孝行委員)

皆さんおはようございます。聖隷福祉事業団の池田でございます。聖隷は医療・保健・福祉・介護の 4 事業がございますが、私はその中で予防医療を担う保健事業部で仕事をしております。

当然、医療になりますので、質の高い健診を行うことを目指すとともに、健康、いわゆる「ヘルスケア」は私たちが地域の皆様に向けてお手伝いはできるのですが、いわゆる健幸都市の幸いを入れた健「幸」は、私たち医療だけではなく、地域の産業、経済の活性化なくしてできないと考えております。

そういった中で、今まで様々な団体の方々や、浜松ウエルネス推進協議会等とも連携をさせていただきながら、これまで新たな価値を見いだすことを目指して参りました。今後につきましても市の健「幸」課題の解決に向けて邁進していければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(笹原恵委員)

皆さんおはようございます。静岡大学情報学部長の笹原と申します。最近浜松キャンパスが静岡大学・浜松医科大学統合再編の問題で皆さん大変お騒がせしております失礼いたします。

私がいる情報学部は 1996 年に学生を募集しまして、もうすぐ 30 年になります。情報学部というと工学系の学部を想定なさると思いますが、実は文系も入っております。私は専門が社会学です。主にジェンダー・スタディーズ、それからエリア・スタディーズということで、コミュニティについての研究をしていまして、廣野会長はじめとする自治会の皆様によくお話をうかがわせていただいています。

今回は、文化・生涯学習の分野に出て参りましたのは、先の文化財保護法の改正により、これまでど
ちらかというと大事にしまっておいて劣化しないように置いていた文化財について、活用して、コミュ
ニティで支えていく、また、支えることによってコミュニティを活性化させていくという時代に入りま
したので、そういう観点から関わらせていただいています。

先の大河ドラマ「どうする家康」で大分、歴史的な関心を集めていますし、蜷塚遺跡など縄文の遺跡
も持っておりますので、そういった文化財を保護しながら、活用しながら、まちづくりに活かしていく
ような視点から貢献できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(吉田早織委員)

皆さんよろしくお願いいたします。常葉大学、健康プロデュース学部の吉田早織と申します。私の専
門はアスレティックトレーニングと申しまして、スポーツ選手、アスリートの障害予防やパフォーマンス
スアップを支援するという専門領域です。東京 2020 オリンピックパラリンピックでは各国選手のコン
ディショニングサポートを行い、現在は静岡県スポーツ推進審議会の委員も務めております。

現在一番力を入れている活動は、大学生たちとともに、地域の子どもの体力運動能力の低下の問
題を改善するという取り組みです。コロナ禍において様々制約がある中で、小学校に出向き昼休みに鬼
ごっこをしたり、その後は「健幸かるた」という、子どもたちの健康リテラシー、ウェルネスのリテラ
シーを高めるための教材を作り授業を行ったりしています。また、体育の授業で先生 1 人では指導が難
しい跳び箱などを、学生たちが支援に行く活動で小学校に入らせていただく機会も増えております。

そのような活動をする中で、小学校に通じる窓口がどこなのか分かりづらく、支援が必要な学校がリゾ
ースを上手く活用できる仕組みが必要と感じています。10 年後、30 年後を支えていく子どもたち、大
学生たちの教育や成長を地域で支援し、また、大学生が地域社会に貢献する実体験を得られる教育がで
きればと思っています。スポーツや運動を中心に、様々な分野での提言、提案をさせていただきたいと
思っております。よろしくお願いいたします。

(廣野篤男委員)

浜松市自治会連合会会長の廣野篤男でございます。今回、市が基本計画を新たに策定するというこ
とで、検討委員会を立ち上げ、委員就任の依頼を受けまして、市自治会を代表する者としてお引き受け
いたしました。

浜松市自治会連合会は、昭和 26 年に誕生して、現在に至っております。本年 1 月 1 日、区の再編に
伴い、自治会連合会の組織を再編成し、新たなスタートを切りました。現在では 743 自治会、50 地区連
合会 7 地域連合会、3 区連合会という大きな組織に発展をしております。我々自治会は、地域が抱える
課題に対し、行政や、本日お集まりの皆様のような他の団体機関と協働して取り組むことが非常に重要
だと考えております。

この会議において、住民自治の立場から意見を述べるとともに、他の委員の皆様のご意見をお聞きし、
参考にしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(東博暢委員)

日本総研の東と申します。よろしくお願いいたします。今浜松ではベンチャー支援アドバイザーとデ
ジタルスマートシティのフェローという立場を仰せつかっております。

日頃は、まちづくりやデジタル田園都市と言われるまちづくりの構想を進めるアドバイスをしていま

す。主に専門は、イノベーション政策と、まちづくり、あと、特に一番最近力を入れているのが、産学官連携共創の分野です。

一番制度的に注目しているところが大学改革ですが、この中ではやはり地域の中核として、どうやってこの社会課題を解くのかや、未来社会をどうデザインしていくのかといったところにアカデミアのハブ機能を強化しましょうということで政府の大学改革の委員もやっております。

今回こういう総合計画をつくりあげていくなかで、まさに皆さんの話がありました子どもとか、これからの次世代どうするかといったところが非常に重要になってきます。内閣のSIPというところで、ポストコロナ時代の学び方働き方を実現するプラットフォームというテーマがあるのですが、そのサブPDもやっております。ポストコロナ以降の学び方働き方がどう変わるかと、ここに対しても今後の浜松の未来の次世代の方々が生き生き過ごせるようなビジョンづくりというところにご協力できればと思いますので、よろしくお願いします。

(事務局 石坂企画調整部長)

皆様ありがとうございました。それでは議事に移ります。議事の進行はコーディネーターの森委員にお願いする予定でしたが、急遽森委員がご欠席ということで、当委員会の委員長であります、中野市長に進行をお願いします。

(中野祐介委員長)

お手元の次第に沿って議事の方を進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。議事の(1)浜松市総合計画について、それから(2)策定スケジュールについて、この2点について事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

- ・資料1 浜松市総合計画について
- ・資料2 策定スケジュールについて

(中野祐介委員長)

それではただいま説明のありました内容についてご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

よろしいですか。それでは続いて議事の(3)市民意識調査(アンケート)の中間報告について事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

- ・資料3 市民意識調査(アンケート)の中間報告について

(中野祐介委員長)

それでは、ここまで、これからご議論いただきます浜松市基本計画が総合計画の体系の中で、どういった位置にあるものなのか、また今浜松に暮らす市民の皆さんの様々な施策に対する意識も、ご理解いただけたのではないかと考えております。

これらを踏まえまして、ここからは意見交換とさせていただきたいと思っておりますけれども、今回、初回でありますので、皆さんから、お1人お1人からご意見を頂戴したいと思っております。

これから議論を進めます基本計画、この先10年の基本計画に望むようなことや、この先10年間浜松市としてどういう方向で進んでいくべきかにつきまして、皆さんのそれぞれの専門の分野について、或

いは専門分野にかかわらず全体を通じて、ご意見を頂けたらと思っております。

ただ、時間がもう 1 時間を切っておりまして 12 時ぐらいまでということになっておりますので、大体 1 人当たり 3 分程度で、皆さんお 1 人ずつご意見をいただけたらと思っております。

それでは、先ほどと逆の順番で、東さんから順番に、一言ずついただいてもよろしいですか。

(東博暢委員)

発表ありがとうございました。市民の方々が本当に浜松市のことを好きだなんていうことが、率直に感じられる、その裏返しで生活の中でさらに求めているというか、さらにサービスの充実を求めているところが、如実に出ていますのかなと思いました。

その中でも、アンケートのところで「感じる」「やや感じる」赤と黄色の数字をどれだけ上げるかといったところが重要ななと思っております、そのところパッと見てみますと、子育て教育のところ、赤黄色の割合が弱いかなというところがあり、この辺りもどんどんと多様化してきていますから、やはり今後、総合計画の中でも、よく言われている DE&I ですね、ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンみたいな文脈で、もうちょっと多様性に対応したような、サービスを作っていくのが必要だろうなというところを感じたというところです。

あとは、クリエイティブシティと言われる、ある種「文化・生涯学習」といったところを充実させていくというところで、今高いところはどんどん引き続きやっていただければいいと思うんですけども、総合的に見て赤と黄色のちょっと低いところをどう改善していくのかといったところを注目して考えればいいかなと思います。以上です。

(中野祐介委員長)

この赤と黄色、おそらくこの 10 年間、現行の基本計画の施策の、成果というか効果が表れてきていると思いますけれども、次回に現行計画の検証評価についてもお示しをさせていただきつつ、この赤黄色のところをどう引き上げていくのか、次回以降またご議論をいただければと思っております。

また、下の方のグラフでいう、この図で言うとやっぱり重要度は高いと思っているが実感ができていないところを、高めていかなければいけないとも感じています。

また次回以降いろいろ出ささせていただきつつ、ご意見をいただければと思っております。それでは次に廣野さんよろしいですか。

(廣野篤男委員)

市民意識調査の結果は、市民がみずからの生活や行政に対して、素直な感想を示していて大変興味深く拝見しました。

資料 3 の 13 ページの、地方自治都市経営が市民協働や自治会に関する質問かと思えます。質問文の中で、自治会や地域行事などの地域活動への参加が盛んかという質問があり、4 割近い市民が盛んだと答えています。浜松市は昔から自治会をはじめとした地域の繋がりが強いと言われておりまして、この結果は、そのことが改めて数値として、表われていると思えます。

また、年齢や性別にかかわらず、誰もが活躍できているかという質問について、重要だと思っている人が多いということですのでございます。現在は少子高齢化が進んでおり、自治会の構成員も高齢化してきています。市民一人一人が年齢を重ねてもずっと元気で、地域で活躍できることが大変重要でございます。より多くの人に地域活動に関わってもらえるように、自治会連合会としても努めていきたいと考えてい

ます。

グラフ、一番下にある地域への愛着は6割近くの人が「感じている」と回答しています。浜松に愛着を持って住んでいけば、その子どもも一旦市外へ出てみずれ戻ってくる可能性が高いと思います。この結果は、浜松の非常に大きな強みだと私は思います。以上でございます。

(中野祐介委員長)

地域への愛着が非常に高いというのは、我々にとっても非常に心強いわけでありまして、何より、地域の活動が盛んだというのが浜松市の強みの1つだと思っていますので、ぜひ伸ばしていけるような計画に引き続きしていきたいと思っています。それでは吉田さん、次お願いします。

(吉田早織委員)

はい、私も資料から非常に市民の皆さんが、満足度が高い分野が多いことを読み取りました。今回のご説明を伺う中で、「協働」という言葉がありましたが、「自助・公助・共助」の3つのワードも重要だと思っています。恵まれていても、もっとももっとと求めてしまうところもあると思いますので、何が自助にあたり、公助として何があるのか、どのようなことが共助にあたるのかななどを周知していくことも重要と感じました。

また、「安全・安心」や「経済的安定」、あとは体、心もですが「健康」のという部分は、幸せを考える上でピラミッドの基盤になるところだと思います。アンケート結果から、今挙げた分野は比較的満足度が高い、もしくは、浜松市の優位性のあるところだと思います。10年後、30年後を考えると、今後さらにクリエイティブに挑戦をするなど、より生き生きとアクティブに生きていく、豊かに生きていく、といったウェルネスのコンセプトから考えると、「文化や芸術」など、今後、より重要になると思います。健康に対する、現在の重要度と10年後の重要度をみると、3位から1位に上がっていますが、現在は予防で済むところが10年後は治療になっている可能性があります。健康は、今、重要であるということより市民の方に周知することができればと思います。以上です。

(中野祐介委員長)

自助・共助のお話もありましたけれども、もともとの上位計画の基本構想が「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」ですので、そういった面も、しっかりと踏まえて次計画を作っていきたいと思っています。それでは、続いて笹原さん、よろしくお願いします。

(笹原恵委員)

調査を見せていただきまして、今回は単純集計ということなので全体の状況の中で、私が幾つか注目させていただいたのは、全体的な満足度ということで、14ページに「全ての分野に関する回答結果」ということで「幸せであるのか」「どの程度生活に満足しているのか」「身近な周りの人や大切な人がどれぐらい幸せだと思うか」を見させていただいたんですが、大学の試験だと8割以上ということだと合格点なので、8割以上のところにちょっと着目すると、「幸せだ」ということで8割以上が32%ぐらい、「満足度」についてもこれは8割以上だと27.4%、「周りの人」についても同様にこれは20%ちょっとということで、大体2割から3割ぐらいの方々が、「幸せである」「満足である」ということで割と高得点を与えているので、これは少し全体的に増加させる必要があると思います。

この後の集計のところで年代別やジェンダー別などのクロス集計が出てくるとと思いますので、どのあ

たりのところが満足度が高いのかや、やや低いのかについては、今後見ていく必要があると思います。

或いは、担当する12ページの「文化・生涯学習」のところで見ますと、比較的他の項目に比べると関心度が低く、その中でも、「興味・関心事」への取り組みであるとか、「芸術・文化の場」、「歴史文化への愛着」といったあたりが、やや高くなっていますが、「生涯学習」や「スポーツ」についてはそんなに「感じる」というのが多くなっていないので、課題だと思います。

あとは総じて、15ページから17ページのところを見ると、どういう分野が重要なのかというときには、「産業経済」「子育て・教育」「安全・安心・快適」、「健康・福祉」といった、生命や生活に直接関わるような分野について重要だと考えているのに対して、「文化・生涯学習」や「地方自治・都市経営」というのは少し上位に位置するというプラスアルファのところなので、やや重要度は低くなっていますが、むしろ他のベーシックなところの満足度が高くなれば、「文化・生涯学習」或いは「地方自治・都市経営」というところへの関心も高くなるということで、全体的な底上げが必要かと思いました。以上です。

(中野祐介委員長)

ありがとうございます。80点で合格はなかなか高いハードルですけれども、極力、次期計画において、この合格点取れるような施策を進め、盛り込んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。続いて池田さんよろしくお願いたします。

(池田孝行委員)

浜松市民の方は本当に幸せな方が多いなという思いと、私だったらどこにチェックしたのかなと思いながらアンケートを拝見させていただきました。

アンケート後半の「あなたの幸せにとって現在または10年後に重要だと思う分野」において、「健康・福祉」の分野は、「現在重要だと思う」では3位ですが、「10年後に重要だと思う」では1位に躍り出るといった中で、今は健常でも、将来漠然とした不安というところが反映されているのかなと感じました。あわせて産業経済が現在と10年後ともに高い重要度であることを鑑みると、長く働ける場所がしっかりとあって、そのために自身の健康が重要であるといったところが見えてくるのかなと感じました。

また、先ほどクロス集計のお話がありましたが、例えば「健康・福祉」分野で実際にサービスを受けている層と、これから受ける層でどのような違いがでるのかというところを見てみたいなと思いました。そして最近、スマートウォッチなど健常者向けのデジタルツールが世界中で作られている中で、この浜松においても今後ヘルスケアのデジタル分野を創造するスタートアップ企業が誕生もしくは移転等で来ていただき連携することで、より強固な、そして浜松独自の健康長寿に向けた取り組みができればと感じております。

(中野祐介委員長)

ありがとうございます。健康長寿というのは浜松においては強みの1つだと思っておりますので、そういった面が個人の健康ということだけでなくいろんな面に生かしていけるようなこともぜひとも盛り込みたいと思っております。それでは、尾島さん、よろしくお願いたします。

(尾島俊之委員)

これは、アンケート調査を興味深く拝見いたしました。幸福度が高い方から低い方までばらついてるところありまして、今後、地域や性、年齢、居住年数によって違いがあると思いますので、その辺

が見えてくると、よりどこに力を入れていくべきかがわかってくるかなと思いました。

あと、先ほど文化の話や所得の話もありましたが、幸福度が低いところと、中ぐらい、やや合格点ぐらいの間の差を決める要因と、合格点の中でちょっと低めとかなり完全に幸せっていうのを決める要因がちょっと違うのかもしれないと思ひまして、両方の施策を進めていく必要があると思ひました。

今回アンケートで基本的には市民の皆さんの主観的な状況を聞いていることで、主観的な幸福度や満足度など非常に重要で1つ軸になるかと思ひますが、まず最終的な計画の中ではそれに加えて客観的な健康寿命や所得の指標も見ながら、計画を考えていくといいのかなと思ひました。

もう1つ、現在の総合計画の説明を伺い、非常によく練られた計画だと思ひたのですが、基本的に章立てが分野別になっており、取り組みを考える上では分野別にする整理はしやすいと思ひますが、一方で市民がどうなって欲しいのかという、成し遂げたい姿を考えるとまたちょっと違う構成になると思ひまして、縦軸と横軸のように、どういう取り組みをするかという分類と、何を成し遂げるかっていう分類とマトリックスになるのかなとも思ひたのですが、何かうまくまとまったような形になるといいなと思ひます。

あと、取り組みが健康ということでも、健康そのものにくっついているものと、所得なども健康に直結することもありますので、取り組み間の連携なども、何か見えるような形の計画になるといいと思ひました。以上です。

(中野祐介委員長)

これからの政策は、単純に縦割りの世界だけで完結する話ではなく、横断的な分野というのは非常に、そういう観点も大事になってきますので、今回のまとめ方、構成の仕方についても、いろいろ今後議論をいただきたいと思ひております。どうぞよろしくお願ひをいたします。

(鈴木美枝委員)

市民意識調査中間報告の16ページ、17ページを見ていくと「健康・福祉」は、幸せにとって現在重要だと思う分野になっています。また、あなたの幸せにとって10年後に重要だと思う分野でも上位に位置付けられていますので、その実現に向けてどのようにしていったらいいのか、また、どうやって皆さんと連携して進めていったらいいのかなと、このアンケート結果を見ながら考えました。

あと、浜松市民は地域の愛着度が高いというところ、これは大きな強みではないかなと思ひました。一方、地域からは、地域の住民同士の関係の希薄化が進んでいるという声や課題があると多く聞いていますので、住民同士の関係の希薄化の課題を解決する部分と地域への愛着度がうまく合致していくために何かできないかなと思ひました。住民だからこそできる緩やかな見守りと愛着度という大きな力をどう掛け合わせていけばいいのかなとこのアンケートを見ながら考えました。

他にも、孤独とか孤立状態である方、また、世帯構成が小さくなってしまったことで何かあったときに相談や助けてもらうことができず、生活の困りごとを抱えてしまう、また長期化することで複合化・複雑化した課題を抱えてしまっている方も多くいらっしゃいますので、そこも考えていかなければいけないと思ひました。

あと、社協的な目線になってしまうのですが、7ページの「生活の安定」で「どちらともいえない」から、「感じない」、「わからない」っていうところが結構ウエイト占めていると感じました。コロナの感染が広がってしまったとき、浜松市はコロナ特例貸付相談申請件数が静岡県内で一番多い申請件数でした。その背景としては、非正規雇用など安定しない雇用状況の方や、外国人の派遣労働者などが多かつ

た現状があります。生活が安定していないと、他に目を向ける余裕がないと思います。逆に言うと安定していくことによっていろんなところに目を向けるような余裕が出てくるし、いろいろな部分で力を貸してもらえるのではないかと考えていますし、安定するからこそ、子どもを産み育てていくところにも繋がっていくのではないかなと思いました。

高齢者の健康福祉の部分ですが、医療と福祉サービスのことだけではなく、生活支援も入れてほしいと思います。一例として生活用品・食料品など買い物に行けない、免許返納や公共交通の路線廃止など、足（移動）の問題で病院受診に行くのも大変という課題が出ています。今、地域では住民同士の助け合いの中で自家用車を使った移動支援に取り組んでいるところが3ヶ所あります。なので、生活支援などそういうところも含めて、計画に入れていただけるとありがたいと思います。以上です。ありがとうございます。

（中野祐介委員長）

ありがとうございます。東京みたいな無機質なまちと違って地域の繋がりがっているのが、それだけ浜松の強みだと思っておりますので、十分生かせるような計画をまた作っていきたいと思っております。それでは続いて、どうぞ、北村さん。

（北村武之委員）

「環境・エネルギー」分野で10ページの「環境・エネルギー」のアンケート調査結果についてコメントさせていただきます。

エネルギーはあって当たり前で、あまり身近に感じられていないかもしれませんが、2011年に東日本大震災があり、その時に大規模集中型の発電所に事故があり、電源喪失や計画停電等々もあって、電気がブラックアウトになったところがありました。

そういった事象を踏まえて、浜松は産業都市なので、そういったことがあると大打撃を受けます。市民生活にも非常に影響を及ぼすこともあり、地域に根差した分散型のエネルギーを導入していくべきだという政策をとってきました。浜松は日照条件もよかったので、まずは太陽光を進めましょうということで、太陽光を進めていった結果、1700余の自治体の中でナンバーワンの導入率になっています。

そういったところを踏まえると再生可能エネルギー等の導入に対する実感が低いということに非常にショックを受けまして、市民に対してももう少し啓発をやっていかないといけないと思いました。

ただ、エネルギーはあって当たり前の話のところもあるので、例えば2018年に台風24号があって浜松の4分の3が停電しました。こうしたブラックアウトや昨年、一昨年に馬込川が氾濫をしまして、台風の大型化や地球温暖化の影響が出ているところがあれば、再生可能エネルギーに関心を持っていただくきっかけにはなると考えています。

カーボンニュートラルは菅政権のときに打ち出した国際公約で、2030年には、2013年度比で46%削減、更なる高みを目指し、2050年にはカーボンニュートラルを実現すると言っております。そういった意味でもこの基本計画は今後10年間の計画ですので、カーボンニュートラルの記載をしっかりといただいて、皆さんの啓発につなげていただきたいと思います。

こういったところも踏まえて、今後、事業展開もしていければいいなと思ったところです。以上です。

（中野祐介委員長）

再生可能エネルギー、電気という点では浜松は全国的にもトップを走っており、その認知の向上を含

めて今後取り組んでいかないといけないと思うのですが、一方で、車社会ですので、そういった面では、まだまだ取り組み足りないところもあると思っております。それを含めて、この「環境・エネルギー」についてもしっかりと盛り込んでいけたらと思います。続いて、石川さんどうぞ。

(石川春乃委員)

「環境・エネルギー」分野の担当としては、エネルギーについては北村委員さんがおっしゃった点について全く異論はありません。総じて、「環境・エネルギー」の評価の10ページで、浜松市民の皆さんが「自然環境の豊かさ」や「生活環境の快適さ」に非常に満足度が高いところは、浜松市民らしいなと、感じたところです。

この満足度が高いのは、自然環境が恵まれていることの当たり前さに浜松市民が普段気づいてない、ということでもあると思います。一方で、エネルギー政策は、改めて北村さんのご意見とあわせて考えますと、評価が非常に低いですね、重要度も、実感度も、省エネルギーですとか、エネルギーに関しての意識っていうのは低い。

けれども、普段から享受しているその質、生活の質の豊かさというのは、恵まれた自然環境を前提に、しっかり感じられている、そこが浜松市ならではの現状ではないかなと思います。

基本計画にしっかりうたっていますこの持続可能な社会で、環境を活かすということ、エネルギー対策はもちろん前提ですけれども、その豊かな自然エネルギーをどう活かすかだと思います。これについては先ほど尾島先生がおっしゃっておられましたように、縦糸横糸を通す考え方からいけば、環境は他の分野を横断する分野でありますので、計画上、横断的な視点をどう考えていくかだと思います。

浜松市は国土縮図型都市ですので、地域別に非常に対応する項目が異なります。特に浜松市は南北にも東西にも、非常に広域ですので、先ほどの地域分類で山間地、中山間地、或いは郊外地、中心市街地、とありましたが、こうした地域別に整理していくということが次の段階で出てくると思います。その際にやはり「環境・エネルギー」についても、どういう対策がその地域に望ましいと考えられるか、非常にニーズが多様化している時代ですので、一般市民のニーズ全体に薄平たく全体を平均でならして対応するというのではなく、浜松市ならではの、メリハリをつけた、落とすべき施策が落とすべく地域に落ちていくという計画になればよいと思ってお伺いしました。以上です。

(中野祐介委員長)

自然環境の豊かさは余りにも当たり前すぎて、高い評価を得られていないのかもしれませんが、いずれにしても、環境の分野は横軸として様々な分野から関わりますし、おっしゃっていたようにこの地域性という浜松はいろんな分野でありますので、そういった点をちゃんと踏まえながら次の計画作っていただければと思っております。

それでは、続いてオンラインの浅野先生からコメントいただいてもよろしいでしょうか。

(浅野純一郎委員 (オンライン))

まとめ方に関して少し気になったのは、重要度と実感度の2軸で、4分割4象限化してみるということですが、重要度については、施策の優先順位を把握するというか、知る意味で、相対的な評価は重要でそれはわかるのですが、実感度を相対的に見ることは全くナンセンスで、実感度っていうのは一種のアウトカム指標なので、平均を出すことにあんまり意味ないです。尋ね方が3だったら「どちらでもない」ですから3より下なものは、要するに及第点じゃないということなので、このまとめ方を見ると、

あくまでも全ての項目について、平均より上だったら高く、下だったら低いというような書かれ方がしてありますが、そういう見方をしてしまうと、大局を見失っている懸念があるのでそれが一番引っかかりました。

実感度の質問というのは総合計画のときにまとめてやるのですが、これは非常に重要で、例えば都市計画の各計画でも、KPI か何かを作るときに実際の数字を使うというのはたやすいようで実は難しく、いかようにも選べてしまいます。達成度は、達成ができそうな数字をあらかじめ指標に選ばずすぐに達成できます。ところが実感度となると、あくまでも市民評価なので嘘がつけないから、評価として非常に重要な指標だと思います。

もしこの実感度を正確に見るとするならば、3 より低かったら及第点に達していないと見ないといけなくて、重要なのはベクトルです。前回の例えば 10 年前に同じようなアンケートをやっていて、比較した場合にその点が上がっているか下がっているかが重要であって、今の時点だけで、平均をとって見ることにはあまり意味がないので、ここの四角の中に書いてあるようなコメントっていうのは少し違うかなと見ていて思った次第です。

それから、皆さんからコメントがありましたので私も大体同じですが 14 ページの結果から見ると幸福度が、6 点台というのはかなり優秀だというのが私の印象です。それから、「あなたの幸せにとって重要か」というのが、10 年ごと、それから現在の 2 つで聞いてあるのですがこの中で、「環境・エネルギー」や「文化・生涯学習」の点が低いのは、これは今後さらに成熟していく浜松市が、市民の方が成熟して豊かさを実感することでいうと大きな課題があって、このあたりの数字が伸びていくことが必要ではないかと思いました。

それから、私の分野で言いますと、「景観」や確か「暮らしやすさ」は結構先ほどのアウトカム指標でも 3 以上いっているので比較的いいと思ったのですが、現基本計画で言われていますように、メリハリをつけるコンパクトシティー化を進めていくことは引き続きやっていかないといけない大きな課題であると思いますし、すでに浜松は都市計画部門で非常に手を打ってらっしゃるのでその流れでやっていくべきだと思っています。

それからもう 1 つは、空き家施策がものすごく遅れているので、ほとんどされていないはちょっと言い過ぎかもしれないですけど、ストック活用をいかに進めるかを早急にしっかりやっていかないと、都市計画の今後の主流の展開から遅れるのではないかという気がしています。以上でございます。

(中野祐介委員長)

今浅野先生からご指摘のありました分析手法について事務局の方で何かありますか。

(事務局 中村企画課長)

ご指摘ごもっとも考えておまして、今回、こちらにお示した四角の中の所見につきましては、まずは、今回、単純集計で出たものを結果として、表しているものでございます。今後、来年度におきましても、同じようにアンケート調査を実施しまして、この指標について目標の指標を設定していく、それから、今回の新しい基本計画の 10 年後の目標の満足度についても設定をしていって、今、浅野先生おっしゃったようなベクトルの方を、どうなっていくのかを見ていくことを今後していきたいと考えております。

(中野祐介委員長)

次回までに、また最終報告の形でまとめますので、その際に先生のご指摘を踏まえて、また整理させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは続いて久保田先生よろしいでしょうか。

(久保田尚委員 (オンライン))

大きく分けて2つ申し上げたいと思います。1つは浜松市にとって非常に大きなテーマが、移動、いわゆるモビリティということだと思っており、先ほども高齢者の方の足の確保というご指摘ありましたが、私も全く同感です。これについては従来からいろいろな施策が、特に山間地域で行われてきたのですが、なかなか根本的な解決には至っていないと思います。さらに、今回の区の再編によりまして、区が大きくなったところがあるわけなので、区内移動という新しいテーマが出てきたのは避けられないと思います。

これに関しては、すでに浜松でいろいろな新しいことにチャレンジされていると伺っておりまして非常に素晴らしいことだと思いますが、一方で将来の、例えば30年後に実現する技術の話と、今日明日或いは10年以内に解決しないといけないことは分けて考えないといけないです。往々にして、自動運転であればすべて解決するだろうということで、議論が終わるとというのが非常に危険でありまして、それは今日明日或いは10年以内の問題は、必ずしも解決できないことなので、それ以前の30年までの移動の問題はそれはそれとしてはちゃんと議論すべきだと思っております。

さらに、そういう平常時に加えて、非常時、まさに今能登で起こっているように、道路が寸断されてしまって、孤立集落ができていると、それからヘリコプターで行っても、ヘリコプターすら降りる場所がないところをどう救うかという非常に大きなテーマが我々の目の前に今存在しているわけなのですが、これはうちにとっても絶対他人事ではありませんので、こういう問題は正面から受けとめていく必要があると思います。

もう1つは、アンケートでもありましたが中心市街地のにぎわいの問題です。かなり問題視されていることはアンケートでもわかりますし、こちらもう数十年にわたって、浜松の中心市街地問題はずっと取り組んでこられているわけです。これについては、特に道路関係、道路街路関係で、ここ数年非常に大きな進展があり、いわゆる「ウォークアブル」という言葉や2020年の道路法の改正で「ほこみち」などかなり革命的に新しい状況が生まれてきていますので、そういうものも活用しながらの中心市街地の活性化というテーマに、再チャレンジしていただきたいと思っております。以上です。

(中野祐介委員長)

公共交通分担率の低さは、浜松一番のウィークポイントだと思っておりますし、また街中の活性化にぎわい、これも重要な課題でありますのでぜひそういったものについては次の計画にしっかり必要なことを盛り込んでいければと思っております。

それでは続いて鈴木さん、よろしくお願いいたします。

(鈴木まり子委員)

アンケート結果の感想からですが私もアイラブ浜松の人なので、皆さんが幸福度も感じているのはうれしいなと思いました。反面、ひとり親で、今日食べるのも大変で、子ども食堂とかフードバンクに頼っている人はアンケートに答えないだろうなと思っております。持ち家で20年以上の人が答えているの

で、逆に言うとそう思っていない人は、その余裕はなかったと思うと、これが「だからよかった」とは、数字のマジックをちょっと、まわりにそういう方達もいらっしゃるので、感想として感じています。

「安全・安心・快適」のところで、特に防災災害の関係を中心にお話しさせていただきたいと思いますが、9 ページ見たときに、例えば「まちなみのよさ」を「あなたの暮らしている地域のまちなみは良いと感じますか」であれば「感じます」という人は、感じたと判断できると思うのですが、災害のところの「防災性」のところの問いが「あなたの暮らしている地域で災害の危険を感じますか」という問いで、これは、いろいろな取り方ができると思っています。1 つはもう自助・共助・公的なもの、公助がある程度充実しているから「感じない」と思っている方もいれば、ハードで、私のところは三方原だから「感じない」という方もいらっしゃる。

逆に言うと「感じない」というのは、「自分ごとに感じていない」や、実は、自主防災の訓練も、自主防災組織の役員は出ているが一般の人は出ていない町がとても多いので、そうすると「感じていない」とも取られるので、この質問は意外と分析が難しいのではないかと感じました。

さっき能登の話が出ました。私も今日午後から行きますが、あそこもハード的に孤立しているところもあれば、実はもう自衛隊がヘリコプターで降りていますが、その地域、コミュニティが固まっていて行きたくないと、今、とどまっていて、自衛隊がお水とか全部降ろしています。二次避難できますが、行きたくないとおっしゃっているんです。

そういうコミュニティの問題というのも実は、ハードだけではないものもあるので、今回また安全な安心な浜松市にするときにそのハードで安心な防潮堤とそれからソフトものと、両方を明確に計画立てた方がいいのではないかと思っています。

一番大事に掲げているのがやはり「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」ですから、一番上の方に「市民協働」って出てきました。そういう意味では、あまりアンケートに市民協働を問いかけてないような気も私はしてしまっていて、そういう意味で、さっき尾島先生がおっしゃったように、横、縦で繋がる、それも市民協働というよりもNPOとか企業とか、商工会議所さんも大学もいらっしゃいますから、そこら辺が基本計画の後の計画を背中を押すことで、市民協働ができていってしまうような計画になるといいと思っています。

この総合計画を実践して実現するのは市民で、その市民の人たちがスモールステップがやりやすい総合計画にしていけたらいいと思っています。

総合計画の 87 ページを見ると「基本政策の実現に向けた取り組み」とありますが、今日この自主防災組織の訓練の実施率の目標値が、85%が 90%。でもこれに関しても先ほどちょっと振り返りますと繰り返しますが、実態も私も参加したり、調査していますが、本当に自主防災の役員が出て、1 時間で終わるものもあって、それも実施率上がってきってしまうので、そういう意味では自主訓練のパーセントを上げるのが目的ではなくて、浜松だったからよかった、浜松で暮らしたから、同じ災害が起きたのに他の市町に比べて、私たちの復興ってすごいというための計画だと思っているので、そこら辺が市民が自分ごとに感じるような計画になったらいいというのは、今日の私の感想と、リクエストというか、希望です。以上でございます。

(中野祐介委員長)

防災は浜松、南海トラフ地震いざれ必ずやってくるような状況ですので、ソフト、ハードを組み合わせしっかりと対応することが必要ですし、また行政だけでは何ともどうしようもないような状況の中で、自助・共助・公助をしっかり組み合わせることが必要だと思いますので、そういった観点からも

しっかり盛り込めたらと思っております。

それでは続いて高木さん、よろしくお願いします。

(高木邦子委員)

まずアンケートの方ですが、回答者の37.7%に「子どもがいない」という状況の回答者なんです。そうした中で、16 ページで「あなたの幸せにとって現在重要だと思う分野」で、「子育て・教育」を挙げられる方は、もともとその4割弱の方は答える想定されていないと思うんです。これは、全体の中での比率ということで出ていますので、これからどんどん少子化が進む中で、こういったもので子どものいる人の声がどんどん小さくなっていってしまうことを懸念します。子どもが増えるようにするにはやはり、ここを重視していただきたく、政策のプライオリティーをつけるときにこれだけを見ないでいただきたいということを感じました。

それから、別冊の現行の基本計画を拝見していて、子育てや教育それ自体への向上についてのいろいろな取り組みについて全く異論はないのですが、すばらしい取り組みがいっぱい挙げられていましたが、一方、それらに取り組む背後には必ずそれを下支えする誰かの労力とか時間が必要なわけで、主には学校の先生、教員だと思うのですが、その面について全く触れられていないことが非常に気になりました。

学校の先生も、浜松市で採用されている以上は浜松市の職員ですし、多くの浜松市の教員が浜松市に住んでらっしゃる方かと思いますので市民としての先生方のワークライフバランスも、何かしら保障して差し上げていただきたいと、強く思いました。以上です。

(中野祐介委員長)

この子どものいない世帯の分析って、どうなっているか実際わかりますか。

(事務局 中村企画課長)

現状につきましては、先ほど委員がおっしゃったように、重要度については、すべての方がお答えしていただいたものをそのまま記載をしている状態です。こちらでプライオリティーをつけるということではなく、今後クロス集計をしていったりなど、子どもを今お持ちでないという方につきましても、今後子どもを持たれる可能性がある方ももちろんいらっしゃいますので、そういった方の意見をどう取り入れていくかということも含めて、分析をしながら、政策への反映の方は検討していきたいと考えております。

(中野祐介委員長)

今後、子どもを持ちたいかどうかまでちょっと分析できてないのですが、少なくとも、皆さんかつては子どもだった方々だと思いますので、その地域の教育とかそういったものについてご自身も経験をされてきた方々だと思いますから、必ずしも子どもがいない方々のご意見、全く参考にならないとか排除してという話ではないと思っております。

ただ、残念ながらやはり回答される方々の中でも子どもをお持ちでない方がこれだけいらっしゃるの、1つ衝撃でありまして。ぜひ、将来的には皆さん、希望に応じて、子どもを産み、育てていらっしゃるような方々になっていただけるようにすることが、今後必要な取り組みだと思っております。

それでは、続いて中村さんよろしくお願いします。

(中村勝彦委員)

8 ページの「子育て・教育」分野ですが、「子育て支援の充実」の中で、「感じる」「やや感じる」と回答された方がかなり少なく、「あまり感じない」「感じない」という方が多かったことが、保育に従事している身としては残念に感じています。

実際に、10 年前は保育園に入園しにくいという中で、待機児童対策で園を創設し、入園できるように浜松市が行い、数年前から待機児童は浜松市では無くなっています。潜在待機児童はまだいるみたいですが、この子育て支援の充実の中で、ハード面の充実から多様な保育に対応できるソフト面が求められているものになってきていると、回答結果を見て感じています。

子育て支援の充実、他のアンケート内容もそうですが、実際に「あまり感じない」「感じない」という方は、どのようなところが感じていないのか具体的にわかると、これからの計画にも浜松をより良くしていくためにも、参考になると思いました。

今、保育分野も保育士不足が加速化しています。実際に保育現場で大きな問題となっている保育事故や不適切保育の原因の一つとして、保育士不足があげられます。養成校に入学して、これからの保育を支える学生も年々減少しているという現状もあります。私たち保育分野はもちろんのこと、その他の教育・福祉分野も人員不足が生じています。他の政令市でも行っているところがありますが、中学生や高校生をはじめ市民の皆様に、浜松市の保育や関連分野の魅力が伝わる冊子等があると、子育て支援の更なる充実につながっていくと思いますので、ご検討いただきたいです。

(中野祐介委員長)

とりわけ人口減少問題対策を考えたときに、子ども、子育て、教育、非常に重要な分野でありますので、今おっしゃっていたような、より突っ込んだ子ども、子育て世代、或いは、子ども子育てをこれからしたいという世代に対する皆さんのご意見ご要望もしっかり踏まえて、様々な施策、決めていけたらと思っているところでございます。

(松島好則委員)

私、農業分野の方で参加させていただいておりますので、ピンポイントでお話をさせていただきたいと思います。

まず、浜松は割と産業都市と認識している方が多いと思いますが、実は農水省の統計等で直近の発表でいきますと農業生産額という農業の農産物の出来高が、実は数千数百、全国で市町村がある中で、全国7位です。かなりすごい数字で、ここ何年かは抜かれてないのですが、今くまモンに大分追い上げられていましてちょっと大変なことになっております。

あと、農産物の品目がどのぐらいあるかというところで、170 品目あります。また、農地面積、農地として認めている面積が、1 万 1700 ヘクタールあります。

東京ドーム何個分かはちょっと計算してないのですが、かなりの面積を持っております。

また農地の中で 10 アール以上 1000 平米ですね、1000 平米以上持っている農家、法人も含めまして農家の方が約 17000 件あります。

そのように、浜松はかなり農業大国と皆さんまず考えていただいて、これからの議論をしていただくとちょっといい数字が、結果が出てくると思いますのでご紹介させていただきました。

そして、私の部門ですが 7 ページの付加価値、「農林水産物のブランド化」ということで、「よく知っ

ている」「まあまあ」っていう方を入れて 45%ぐらいあります。これが高いか少ないかはブランド名のうち、例えば、「三ヶ日みかん」や「篠原の玉ねぎ」はすぐ聞くとと思うのですが、やはりそういうブランド化してすぐ皆さんが思い浮かぶようなところは、実は農家の人口も多く、農地面積も多いということで、当然ですがブランド化されているところというのはやはり、農業が盛んな地区です。

そう考えていくと浜松全体がいろいろな意味の 170 品目ある農産物、全部ではできませんが、そのようにブランド化されていくと、やはり農業人口また農地の保全にも繋がるということになると思いますので、今後こういうデータを生かしながらまた施策を考えていただければと、私の感想としては思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(中野祐介委員長)

温暖で日照時間長い浜松ですので農業、農業だけではなく農林業も浜松の非常に重要な産業だと思っておりますのでそういった強みも、生かせるようにしていきたいと思っております。続いて、斉藤さん。

(斉藤薫委員)

商工会議所会頭として、産業界として、「現在の重要」と「10年後の重要」という中で、上から3つが、「産業経済」、「安全・安心・快適」、「健康・福祉」と並んでいます。今、産業構造が皆さんご存じのようにEV化というのが来ていて、それでいくかどうか分からない中で水素が今出ていますので、そういう部分での、特にこの浜松地方、遠州地方の自動車産業の数がものすごく広いですので、その産業構造が変わったときにどうなるのかというのでは、すこし問題があるのかなと思ひます。

それと、今、問題の人口減少とそれに伴う少子高齢化。私どももバスをやっていますが、過疎のバスの問題も、当然どうしようもない中で、さっき久保田先生も言っていましたけど、もう長年それに取り組んでいますが解決策はないです。

それから、働き手がないという意味では外国人雇用、技能実習生で100人近く採用していますので、そうした人たちの雇用と住まいをどう共生していくか。浜松市は前の市長も頑張って多文化共生として、外国人と一緒に住むという先駆的なまちですので、より良い強化をしていかないといけないです。

今までのこの20年30年とは違うフェーズで、賃上げとインフレが出ているので、それが生活をどう変えていくかというような視点もないと、この10年は急激に変わると思ひます。

東さんが詳しいかもしれませんが、やはり生成AIについて、こういうのをやりたいと部下がどんどん持ってくる。破壊的に、ちょっと想像できないくらいいろいろなものができる。だから、デザイナーがいらないって、うちもデザインを、今までは通勤族の女性で優秀な人たちがちょっと来てくれてやっているのですが、その人たちに見てもらう前に、介護の求人のための絵を作るとかやるのですが、指が6本だったり、手が、人間がどう見てもこんな手の曲がり方しないというのを作ってきます。そこはやっぱり、人間が見て直さなきゃいけないのですが、既にそういうところまできていて、非常に破壊的なパワーです。

教育も営業の教育を、AIがやってくれるというから、採点もやってくれます。入社面接も、もう生成AIが全部採点してくれて、この人はどういうふうに向いているかもわかります。

それと生産性が上がることによって人口減少に対応しているとか、いろいろなことがあるんですが、先ほど言っているカーボンニュートラルの中で省エネを、どう産業で取り組んでいくかは非常に大事で、LED化するなど小さなこともやっていますが、そういうのをどうこれから取り組んでいくかが非常に大事かと思ひています。

このアンケートの中で中心市街地が、どうあるべきか。産業のまちですので、商業のまちではないところに、構造的に違いがありますが、でもやっぱり街の顔として、駅の前とかや市役所の周りがそれなりに、皆さんが誇りを持てるようなものにならないかと思えます。

先ほどお話あった農業は浜松、とんでもなくパワーがありますので、浜松のパワーを上げていくこともこれから考えていかないといけないと思っています。

最後に、「健康・福祉」というのは、やはり 10 年後、どうしてもそこが 1 番になってくるのかなど。10 年後の重要性です。私も介護職で 600 人近くいますが、いろいろな部分で、提供している中で、これから介護のやり方がどうあるべきか、そこで働きに来ている人、それもさっき言ったように、生成 AI がものすごく効果を持ちます。いろいろな意味でベッドなどもみんな判断してくれるようなことで生産性を上げてくなど。ということで、介護職の仕事の中身も変えていかないといけないと思っていますので、今までの発想ではない。特に、賃上げとインフレは、生活とお金がどう変わってくるのか。それは他の都市間競争ですが、他がやっているのと同じぐらいのレベルで浜松もやっていかないと、また他に取られてしまい、どんどん東京に吸い取られるため、そこをこれから、考えないといけないと思っています。

(中野祐介委員長)

ありがとうございます。一次、二次、三次産業を通じて、産業経済の活力が、浜松市の活力に繋がると思っておりますので、とりわけ、変化のスピードが非常に速い時代になってきましたのでこれまでの 10 年以上に変化が大きいという前提でまた計画の方もしっかり考えさせていただければと思っています。

大変駆け足で恐縮でしたが一通り皆様からご意見をいただきましたので、また次回検討に向けてご意見、しっかり反映をさせていただければと思っています。また今日これで言い足りないことがありました皆さんにおかれましては、また事務局の方にお話をいただければ、次回検討に向けての準備をさせていただきますのでよろしく願いをいたします。

そろそろ時間でございますので、後の進行について事務局の方でお願いします。

(事務局 石坂企画調整部長)

皆様ありがとうございました。皆様からいただきましたご意見を踏まえまして、次回 4 月の予定で、第 2 回の検討委員会を開催したいと思いますので、また皆様にご案内をいたします。

今回は現行計画の評価検証結果とあわせ、市民意識調査の最終報告等もございますので、ご意見のご指摘を踏まえて、まとめて参りたいと思います。併せて、基本計画策定作業を進めて参りたいと思いますのでよろしく願いいたします。

以上をもちまして、第 1 回浜松市基本計画検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。